

就職活動を終えて（公務員試験）

植物生産環境科学科 Aさん（平成27年度卒業）

私が公務員試験を受けて大切だと思ったことは2つあります。まず1つ目は自己分析をしっかりとすることです。私は公務員の講座に通っていなかったため自己分析や面接対策をどうすればよいのか分かりませんでした。また、自己分析が大事であることは人から聞いていましたが、具体的にどういうことをすればよいのか全く分かりませんでした。しかし、学校の就職支援課が予約制で自己分析や面接練習を手伝ってもらえることを知り、行ってみることにしました。私がここを初めて訪れたのは4年生の5月頃でした。しかし、その頃にはもう予約をしている人が多く、自己分析や面接練習に取り組むのが遅れてしまいました。わたしはこの経験よりもっと早く自己分析をしておけばよかったと感じました。自己分析をすることは志望動機や自己PRに繋がるので、面接対策にもなりとても大切です。これは、公務員試験を受ける受けないに関係なく、自分のしたい仕事をはっきりさせるために必要なことだと感じたので、早めに取り組むことをお勧めします。

2つ目に大切だと思ったことはしっかりと息抜きをするということです。就職活動ではさまざまな場所や人に出会うことが多いので、気疲れをしてしまうことが多いと思います。また、公務員試験を受ける方は長い間、試験のための勉強をしなければいけないので、大変だと思います。こうした状況ではしっかりと息抜きすることが大切です。私もずっと勉強をただただするのではなく、「今日は数的処理を4問、日本史を5問」など決めて勉強し、勉強が終わると息抜きに買い物や遊びに行ったりしていました。公務員試験の勉強は1日にたくさんやるというよりも毎日続けることの方が大切です。したがって、メリハリをつけて勉強をすることで気持ちもリフレッシュすることができ、再び勉強を頑張ることができました。

就職活動は長丁場です。特に公務員試験の受験を考えている方はそのための勉強で思うような点数が取れず苦戦することもあるかと思います。そうした時は自分一人で抱え込むのではなく、家族や友だちに相談をしたり息抜きをしながら自分のペースで頑張ってください。

公務員試験に向けて伝えたい3つのこと

森林緑地環境科学科 Bさん（平成27年度卒業）

私が公務員試験を受け、その際に必要だと感じたこと、もっとこうしていればと感じたことを書いていきたいと思います。

「公務員試験」はひたすら勉強するというイメージがとても強いと思います。正直なところ、筆記試験である一次試験を超えるためにはやはり勉強はとても

重要になります。いくら公務員になりたいという熱意や意欲があっても一次試験を合格しなければ、その熱意や意欲は伝える事は出来ません。

よって、まず私が伝えたい事は、早いうちから少しずつ試験勉強を開始するという事です。私の場合、企業に就きたいか、公務員に就きたいか、自分の中で明確になるのが遅かったため、他の人より試験勉強を開始するのが比較的遅かったと思います。試験日まであまり時間がなく、手をつけることが出来ない分野が多くあり、試験勉強をした分野が絞られ、実際、一次試験の結果は良いものでは無かったと思います。ですから、試験勉強を早めに始める事は公務員試験に向けて1番重要ではないかと私は感じました

次に、一次試験を超えて待っているのが面接です。面接はとにかく**場数を踏む**という事だと思います。知らない人の前で自分の意見を言う事は誰だって緊張すると思います。本番で全く緊張しないとは言いませんが、先生や友達、就活センターの方などに付き合ってもらい、面接練習を多くしておく本番で少しは緊張が抑えられるのではないのでしょうか。面接本番で重要なのは熱意や意欲をどれだけ面接官に伝えられるかです。緊張によって自分の意見を伝える事が出来ないのはとても勿体ないと思います。

ここまで、筆記試験や面接について書いてきましたが、「**休む**」という事も必要だと思います。もちろん試験勉強はとても重要です。しかし、時には友達と遊ぶなど、休む時は思いっきり休むというメリハリを付けたからこそ、私は公務員試験を最後まで諦めず続ける事が出来たのではないかと思います。

公務員を目指している皆さんに、少しでもこの文章が参考になれば幸いです。公務員試験に合格するまで長く険しい道かとは思いますが、皆さんが最後に笑って就活を終えることができるよう心から願っています。

「自分らしさ」を忘れずに

応用生物科学科 Cさん (平成27年度卒業)

就職活動に不安を抱いている人は多いと思います。私自身もそうでした。しかし終わってみると、気負いすぎているように感じています。今年は就活時期が例年と変わり、学生側も企業側も困惑していましたが、それはみんな同じ条件です。エントリーや面接のスケジュールをしっかりと把握するよう心掛けていれば心配することはありません。

今回は私が就活で大事だと感じたことを2つ紹介したいと思います。

1つ目は、自分がどんな仕事をしたいかを明確にすることです。私は九州、できれば出身地で食品関係の仕事がしたいという思いが最初からありました。そのため、プレエントリーや説明会の申し込みがスムーズにできました。志望動機等も書きやすかったです。合同説明会をやりたい仕事がある程度決まって

いる人は、志望している企業が参加していれば行く、という程度で十分だと思います。個別の企業説明会もあるので焦る必要はありません。私は3回参加しましたが、失敗だったと感じています。交通費もかかるし、その時間を企業分析にあてればよかったと少し後悔しています。逆にあまり将来のビジョンが浮かばないという人は積極的に参加し、色々な職種について知るのは良い経験になると思います。

2つ目は面接についてです。私は10回ほど面接を受けましたが、「失敗したなあ」と感じたのは最初の一回目のときだけです。緊張のせいもありましたが、一番の原因は内容を全部暗記しようとしていたからだと思っています。この失敗以降、言いたいことをキーワードとして覚えておき、あとはその場で臨機応変に話すようにしてきました。難しいように感じるかもしれませんが、私は友達と話しているイメージでやると、すらすら言葉が出てくるようになりました。ただし言葉遣いは気をつけてください。当然敬語ですよ！自分が興味を持っていることならば、たとえ会社についてだろうと仕事内容のことだろうと案外話せるものです。もちろん、企業分析を十分に行っていることが前提ですが。これによるメリットは、自然体で接することができることと、予想外の質問に対する回答もパッと浮かびやすくなることです。私の場合、多少フランクになりすぎたように自分でも感じていますが、笑いをとる、コミュニケーションを重視するという意味ではそれも良かったと思っています。以上はあくまで私のやり方なので、もちろん自分の一番やりやすい方法で挑むことが重要です。数多く面接を受けて自分のやり方を見つけてみてください。

もう一つ面接で重要だと感じたことは、「個性」を出すことです。例えば大学生活中で頑張ったことを話すとき、資格をとった、留学をした、部活を頑張ったなど色々あると思います。しかし沢山の学生がいるので、同じような内容になってしまうのは必然です。重要なのは、過程とそれにより得たものを上手に伝えることです。自分がどのように工夫して結果につなげたか、また、それにより得られたものを入社後どのように活かせるかを自分なりの言葉で伝えることが求められていることではないかと、個人的に考えています。

就活期間は長いですが、時には希望する複数の企業でスケジュールが重なることもあります。就活の流れを早めに把握し、余裕を持って臨むよう頑張ってください。

準備は自分を助ける

海洋生物環境学科 Dさん（平成27年度卒業）

公務員試験を終えて、もっと早めに取り組みばよかったことと頑張ってたことを挙げていきたいと思います。

私が公務員を意識し始めたのが3年生の1月頃でした。この時点で周りより

もかなり遅いスタートだと感じていたので、一次試験のある6月末までは過去問を解く事に集中しました。今回、私は一次試験を通過することができましたが、一次試験では過去問を解く事にどれだけ時間を費やしてきたかが重要であると感じました。

私が最も早く取り組めばよかったと感じたものは、自己分析です。一般的に公務員は民間企業と違い、一次試験を通過しないと志望動機などを書く面接カードを提出できません。私は一次試験が終わった時点で自己分析すら行っていませんでした。一次試験通過後に届く面接カードの提出期限は10日程度しかなく、何度も先生や先輩方に添削していただき書き直しました。また、提出日は二次試験（記述試験）の日でもあったため合格発表日からその日まで面接カードの修正と記述試験の対策に追われる毎日でした。記述試験の準備をしっかりと行うためにも、試験前に自己分析だけはやっておけばよかったと強く思いました。

また、私が最も力を入れたのが面接対策です。私の受験した自治体は面接が記述試験3倍の配点でした。そこで私が利用したのが、公共のジョブカフェ（無料）です。面接に対して根拠のない自信を持っていたのですが、自分が思っていた以上に緊張して喋れないことに気づきました。最終的に、本番では笑顔で話せるまでに成長できました。

公務員試験を振り返って、多くの方々に助けられた結果の最終合格だと思っています。たくさん情報やアドバイスを頂き、大変なこともありましたが乗り越えることができました。公務員を考えているみなさんも問題を解くこと、自分を見直すこと、面接の練習をすること、すべての準備が自分の力になると信じて頑張ってください。準備はほんと大切です。ありがとうございました。

民間の企業に対して就職活動をする人へ

畜産草地科学科 Eさん（平成27年度卒業）

まず、私自身の就職活動を振り返ってみると、あまり褒められたものではないと思います。

私たちの代の就職活動はこれまでとは違い、3年生の3月1日からです。（通常なら12月から）しかし、私が実際に活動を開始したのは5月頃からでした。というのは、私が“就活”というものを、よく理解していなかったからです。企業の情報はどこで手に入るのか、説明会是何時・何処であるのか、その企業はどのような選考の体制をとっているのか、そもそも自分は何をしたいのか、等いろいろなありました。特に“自分が何をしたいのか”というのは大事だと思えます。これからの就活での根底になるからです。これは就職活動が解禁になるまでには是非とも（出来れば具体的に）固めて欲しいと思います。

次に選考から内定への流れですが、これを知るにはいろいろと方法があります。マイナビやリクナビ、その企業のHP、就職支援課を訪ねる、単独説明会で聞く、等です。

マイナビやリクナビは就職支援のサイトで、ここからでしかエントリー(俗に言う申し込み)が出来ないという企業もあるので、両方に登録しておくことをお勧めします。

一般的な内定への流れとしては、エントリー → 単独説明会 → オープンエントリーシート提出 → SPI テスト → 面接(1次～) → 内定、となっています。エントリーや説明会への参加、SPI テスト等には、それぞれ期限が設けてあるので、確認し、絶対に守りましょう。

面接が不安だ、という方がいると思いますが、面接は練習を繰り返すことが一番です。友達でも先生でも誰でもいいので聞いてもらいましょう。そして、どこが悪いか確認しましょう。内容も大事ですが、姿勢や表情、身だしなみ(清潔さ・髪・服装 etc…)も大事です。

就職活動は、苦しいです。すごくストレスがかかります。それに加えて卒論等もこなさなくてははいけません。誰々が面接を受けた、内定もらった、と聞くと不安になるかもしれません。途中で投げ出したくなるかもしれません。しかし、それを超えて自分自身の内定を頂いた時の喜びはとても大きいです。また、自信に繋がると思います。

就職活動は将来に直結する大切な時期です。私のこのレポートが皆さんの役に立つかは分かりかねますが、最後まで諦めずにやり遂げて下さい!!

就職活動に苦難した獣医学生の1例

獣医学科 Fさん (平成27年度卒業)

【諸言】「選ばなければ」就職には困らないと言われる獣医学科。しかし実際には就職先はどこでもよい、と考える者はいないと思われる。私ももちろん、明確な目標をもって就職先を選定したが、新卒獣医師の約1%が目指す狭い業界であった。

今回、就職活動に苦難した獣医学科学生1名に遭遇したので、その概要を報告する。

【学生】今回の学生は、馬に関係する職場への就職を希望していた1名である。まず、実習を突破口として計画したものの、日本における馬に関係する獣医師の職場は両手で数える程しかなく、実習先の選定はごくわずかであった。加えて、その職場は宮崎から遠く離れた北海道に多く、時間的にも経済的にも多大な負荷がかかることとなった。結果は惨敗。実習先において内定は得られず、採用試験においても不合格となった。

落胆の中、幸運にもある会社から募集があり、採用試験を受けた結果、合格した。それから 3 カ月が経過した現在、日々落ち着いて、残り少ない学生生活を過ごしている。

【考察】実習は 5 年次から行きはじめたが、正直スタートが遅かったと反省している。実習に行くたびに仕事に対する新しい発見があり、学生の中に様々な職場を見て勉強しておきたかったと悔やんでいる。実習に関してプレッシャーに感じたことは、常に他の学生達と比較されることである。狭い業界であるがゆえ、同じ道を志す学生は皆同じ場所に実習に行くことになる。当然、同様の道を歩んだ先輩方とも比較されることにもなる。実習先ではいかに自分をアピールできるか、ヘマをしないかが重要であった。決して見学のような気持ちで実習に臨んではいけない。どれくらいの知識を身につけているのか、どれほど動けるかが実習先では見られている。

採用試験に関しては、ES や面接も含め、目上の方々への連絡、礼儀、言葉遣いなど注意することが多く、少しの油断が命取りになる。ともあれ、学生のうちに社会の礼節等を多少なりとも勉強できたことは、私にとってプラスではあったと思う。

就職に関する情報だが、狭い業界であるため、その筋の情報に詳しい人との「コネクション」が必要であった。私の場合は幸運にも先生方に恵まれた。実習先の紹介や試験対策をはじめ、数々の助言を頂いた。人との関わりは本当に重要であった。

就職活動とは苦しいものである。途中で夢を諦め、楽に就職する道もあった。そんな中、あえて困難な道を選んだ。そのおかげで、実習を通した新しい経験、多くの人との出会い、採用試験など内容の濃い就職活動となった。結局は、「馬」の仕事がしたいというモチベーションを最後まで保つことができたことが、就職活動を成功させた要因になったと思われる。

就職活動に臨む後輩たちへ

植物生産環境科学コース G さん(平成 27 年度修了)

この本を読んでいる宮大生の中には「就職活動」が間近に迫っているにもかかわらず、どうやって就職活動をやっていけばいいのか、まだ考えがまとまっていない人もいないのではないのでしょうか。そこで皆さんへ、私が就職活動の中で特に大事だと思った点についてお伝えしたいと思います。

1) 利用できるものはとことん利用する

高校、大学まで学力試験のみで入学してきた私にとって、面接は最大の難関でした。アルバイトなどの簡単な面接とは異なり、企業の面接は形式に則った

流れ（入退室など）を完璧にこなした上で自己アピールをしなければいけません。そこで私はハローワークに行き、何度も無料の面接指導をしてもらいました。本番さながらの面接指導は非常に熱がこもっており、さまざまなアドバイスを受けることができます。さらにESの添削も無料でしてもらえるので、頻繁にお世話になりました。

2) 自発的に行動する

自分の希望する企業が、登録した就活支援サイトに募集通知を出していないことがあります。また、新卒採用の専用ホームページに行っても、就職活動が始まる前から「今年度の募集は終了しました」のまま、まったく更新されない企業もありました。そういうときに今年は新卒募集がないから諦めるのではなく、自分から企業にメールを送るなりしてアプローチしてみてください。企業の中には就活支援サイトには募集を出していないだけのところや、はじめから一般公募せず、特定の大学にのみ募集の話が行っているところもあります。自分からアプローチをかけることで熱意が伝わり、個人的にメールで募集案内が送られてくることもあります。

3) 他人と違うことをする

就職活動を進める中で、いかに他人と差をつけるかが大事になります。私の場合は「同じような人物が応募してきたとき、自分が人事担当ならどのような人物を採用するか？」と常に考え、ESや履歴書を郵送する際に書類の入れ方、順番などに細心の注意を払っていました。さらに、毎回欠かさず手書きの添え状を同封していました。こういう細かい点が出来ているかどうかで、人事からの印象が大きく変わるのではないかと思います。

私がここに挙げたのはほんの一例に過ぎません。この本に載っている他の人のメッセージも参考にしつつ、早い段階で自分の就職活動のスタイルを構築してください。私たちからのメッセージが少しでも後輩たちの就活の役に立てば幸いです。

「私の就活の進め方」

森林緑地環境科学コース Hさん（平成27年度修了）

就活が始まる前に私が行ったこと

私は、木材の流通について興味があり、大学での研究も木材の流通についての研究を行っていました。また、幅広い知識をつけるため木材業界の業界紙を読んだり、セミナーに参加したり、色々行動をとってきました。そのため、就活が始まる前に「木材流通に関する仕事に就く」という軸が出来上がり、業界に関してもある程度知識を持つようになっていましたし、就職したい企業をいくつか決めていました。

就活のセミナーの利用の方法

1月頃からセミナーが始まり、就活という言葉聞き始める頃です。セミナーでは、就活の流れ、自己分析の仕方やその大事さ、業界研究の仕方を聞くことができ、就活の準備に必要なことが聞くことができます。私の中で一番助かったのは、セミナーの講師の方が、ほどよく不安を与えてくれるため就活の為の準備を進めていくモチベーションを上げることができたことでした。この時期は、まだ就活に対する実感がなくモチベーションを維持が難しかったので、時間があればセミナーに参加し、モチベーションを上げていました。

会社説明会へ参加する目的

3月から会社説明会が始まり、就活を実感する頃です。私は選考を受ける企業は絞っていましたが、それ以外の企業も説明会だけは受けていたりしていました。一つは、単純に見聞を広めるために、もう一つは、企業を見る目を養うためです。私は選考を受ける業種を絞っていたので、業務内容に違いがありません。そのため、企業同士を比較して違いを見つける必要がありました。違いが分からないと面接時に「なんでわが社なの」って聞かれたときに答えようがありません。そのため、受けるつもりがない異業種の企業の説明を聞き、多くの企業を見て、企業を見る目を養いました。ただし、お金や時間もかかりますので、宮崎で説明会があるところと、選考を受けるつもり企業の説明会のついでに受けられる企業にしていました。このおかげで色々な企業を知ることができ、比較の仕方も覚えていきました。

選考開始してからの行動

私が受けようと考えていた企業の選考は始まるのが早く、4月から説明会と1次選考がセットになって行われ始めて、準備に追われていました。準備とは履歴書を書くことで、説明会を受ける前からある程度、志望理由と自己PRを書くようになっておく必要があります。そのため、選考を受ける企業の特徴を知っている必要があります。念入りな企業研究と企業同士の比較が重要でした。私は、業界紙等で良く知っていた企業が多かったため、履歴もすんなり書けました。

次の選考への準備と選考落ちからの立ち直り

選考の結果はだいたい2週間ぐらいですでできます。次の選考に進めたものもありましたし、落ちたものもありました。次の選考に進めた場合には、自信に繋がります。自分の考え方は間違いがなく、企業側も評価してくれたのだという気持ちになります。次の選考に対しても、次はどんな事を聞かれるのか、どんな話をしようという楽しみな気持ちになってきます。一方で、選考落ちるとショックがあります。その企業の志望順位が高ければショックが大きくなります。私も一次選考で落ちてへこんだりしました。特に、面接で手ごたえがあったのに落とされたときは自分を否定された気持ちになりました。そのようなときは、

自分の自己PRの書き方が悪かったのではないか、そもそも自分の企業とのマッチングが悪かったのではないかと思うようにしました。また、人から客観的意見をもらって、次に生かすようにもしていました。

最終選考まで進んだ時の気持ち

選考が進んでいき、第一希望の企業の最終選考までたどり着きました。この時には、夢のような気持ちです。最終選考に進んだ企業はもう1社ありましたが、気持ちの入り方が違います。夢があと一步で叶うところまでできたのです。最終選考に進むのが決まった日から2週間は、期待で胸がいっぱいと同時にその夢が破れてしまわないか不安もある日々でした。この時に支えになったのは、同じく就活をしていた同級生です。みんな同じ状況ですので、就活に対する不安等は理解してくれる部分が多くあり、話を聞いてくれるだけで気持ち的に楽でした。そして、最終選考当日は面接前から緊張しており、面接中も緊張していました。しかし、緊張しても、自分の素直な考え方等は言えるもので、自分が素直にその希望をする理由が言えたことは大きかったと思います。私は2週間後に無事内定の連絡をいただき、就活を終えることができました。

就活を終えて

私の場合は、就活が始まる前からやりたい事を決めて、それができる企業を調べて、企業を絞っていたことが希望通りの就活ができたことにつながったと思います。人それぞれの自分に合った就活あると思いますが、自分なりの軸を持って就活に挑んでほしいと思います。また、就活は1人でするものではありません。私も選考が始まってから、不安で同級生に相談したりしていました。メンタル面のケアも大事ですので、ぜひ就活中は人との付き合いも大事にしてください。

これから就職活動を迎えるみなさんへ

応用生物科学コース Iさん（平成27年度修了）

このガイドブックを読んでいる皆さんは、「就活」というものに対して、どのようなイメージを持っているのでしょうか。漠然とした不安があったり、何から手を付けていいのかわからなかったりと、あまりいいイメージはないかもしれません。私もそうだったと思います。私は、公務員試験と企業のどちらも視野に入れて、就職活動に取り組みました。今回は、私が約7か月の就職活動を通じて感じたことを伝えられたらと思います。

まずは私の就活の簡単な流れを紹介したいと思います。私が就職活動を始めたのは3月で、福岡で開催された合同説明会に参加していました。それから企業説明会に参加したり、エントリーシートや履歴書を書いたりしながら、5月中旬と6月下旬に公務員試験（県職員採用試験）の一次試験を受けました。公務

員試験は地元の県庁の行政枠と、農政枠の2つに応募していて、行政枠の方が1か月早く選考が進んでいました。また、同じ時期に企業の選考も受けていたので本当に忙しい日々を送っていました。7、8月に入ると企業の最終選考や公務員の2次試験が始まりました。周りの友達の中には内定をもらっている人も出てくる中、なかなか内定まで辿り着けず焦りが出てきたのを覚えています。最終的には8月の終わりに公務員(行政)の内定が貰えたので、企業なども選考の進んでいるものだけにして、9月にあった公務員(農政)の最終面接で就活を終えました。

私は公務員試験と企業のどちらも視野に入れて、就職活動に取り組みました。就活が始まったとき、もしくはそれ以前の段階でどちらか一本を選択し、集中して取り組んだ方が、もっと賢く就活を進められたのかもしれませんが、ただ、いい言い方をすれば視野を広く持つことで、自分の興味がどこに向いているのかを確認することが出来たし、面接やグループディスカッションなどは回数をこなすごとにうまく自分を表現できるようになったと思います。公務員試験でも筆記試験より、面接の配点の方が高い自治体も多いと思います。面接は場数を踏むことで確実に改善できると思うので、ぜひ視野を広く、いろんなところにアンテナを張って就活に挑んでください。みなさんの「就活」が満足のいくものとなることを祈っております。

「自己分析」

就職活動に対してやるべきことは様々ありますが、私は、「自己分析」が就職活動において最も重要視すべきことだと感じました。自己分析は面接対策やエントリーシートなどの就職活動の基盤を構築するために必要です。特に、私は面接対策に重要であると考えています。

大半の企業の最終選考は面接によって行われており、就職活動が進むにつれて面接は避けては通れぬ道です。面接とは、「自分自身を商品として企業に売り込む場」です。面接では、自分がどういった人間なのか他者に説明できる力が必要です。自社の商品を説明できない営業マンでは契約は取れません。つまり、商品＝自分を十分に理解し、説明できるか否かが重要になってきます。また、面接とは、『あなたがどういった人間なのか?』を面接官が把握する場でもあります。そのため、面接官は①自己PR及び②学生時代頑張ったことを軸にした回答を就活生に求めています。両者とも自己分析がしっかりと行えていれば問題ありません。面接官からの質問事項に対して的確に回答するには、自分自身をよく知らなければなりません。従って、「自己分析」が就職活動を円滑に進めるために必要であると私は考えています。

私は自己分析を行う際、自分自身で行う「自己分析」と他者に行ってもらった「他己分析」の二つの方法を実施しました。個人的には後者の方法がより大切

だと考えています。友人、先輩、後輩、指導教員、両親など誰でも構いません。他者から自分自身を客観的に分析してもらうことで、自身では気付けない部分を発見することができます。この自身の気づけない部分が重要であり、自己分析の情報量を増やすことは就職活動を有利に進めることに繋がります。自己分析を行うことで、自身の長所が出てくる一方で短所も出てくるとは思いますが、それらすべてを素直に受け止めることも就職活動攻略の鍵になると考えています。例えば、短所がせつかりであったとしても言い方によっては行動力があると考えることができます。もちろん短所をそのままにしておくことはあまり好ましいことではありませんが、捉え方の切り口を変えることによって、短所を長所に変えることもできます。自己分析により今までの自分を見つめなおすことで、自分の長所、短所だけでなく、今まで何を学び、どのように感じたのかを理解することができます。更に就職活動では、その経験・体験を、今後社会人において、どのように活かしていきたいのかを明確に位置付けながら説明することが必要です。自身のことを正しく理解することができれば、イレギュラーな質問が来ても対応することができるので、面接で不安になることもありません。

就職活動とは自分自身を見つめなおすことができる絶好の機会です。今まで生きてきた自分自身の軌跡を見直すことで、私という人間の中身を再確認することができます。就職活動とは人生の岐路の一つになると思います。人生一度しかない新卒採用での就職活動を楽しみながら行い、内定を勝ち取ってください。これから就職活動を行う皆様の参考のひとつになれば幸いです。

血とし肉とせよ

畜産草地科学コース Jさん（平成27年度修了）

私がこの就職活動を通して重要視したことは、就職活動の一つ一つを自分の糧とすることです。当たり前のことですが新卒採用の就職活動を何年も経験した人は居ません。なので、基本的な条件は対等です。であるならば、一度に多く、そして早く糧にした人が優位であると思います。

まずは合同説明会に関してですが、参加することは非常に大事であると思います。それも自分の行きたい分野のみではなく、多くのブースに行ってみることで希望の職種の魅力を比較する事で明確に確認が出来き、明確な動機等を、履歴書やESで書くこと・面接で言うことが出来ると思います。

次に就職活動自体の情報ですが、そこは他の人が書くと思うので割愛しますが、初めからその通りに上手くはいかないと思います。その情報は可能な限り実行し、最低でも忘れないようにすればいいと思います。

面接では、せつかくお金をかけて行くのですから少しでも多く情報を得なけ

ればなりません。待ち時間に近くの学生と話すことで失敗談が聞けます。今までの情報は一般的なものですが、同じ職種を希望する学生の話ですので、事前の企業研究だけでは見つけられないことが得られる可能性があります。以上のような情報が頭にあるだけで、実際面接が終わった時・不採用通知が来た時に自らの悪かった所を反省および分析が出来ます。これが重要であると思います。そうすることで経験が自らの血肉になり、次からは失敗しないように動けます。それと同様の事態になった時、対応できるのか否かが大きな分かれ道になると思います。

そうするためにも第一志望の前に数社受けて、経験を積み、一日でも早く自分の血肉にすることを勧めます。私は、当初、そういうことを全く考えておらず、血肉にする時期が遅くなり、第一志望のところは叶いませんでした。しかし少しずつ血肉にすることで、徐々に内定へと近づけていったのではないかと思います。

部分的な話となりましたが、これを見てくれた方の少しでも血肉になり、就職活動を後悔無く終わっていただけたら幸いです。

自分を知る就活

農学国際コース Kさん (平成 27 年度修了)

私が就職活動を開始したのは修士 1 年の 3 月、福岡で行われた合同説明会でした。とりあえず参加したものの就職について全く考えていなかったの、どう行動すれば良いかも分からなかったのを覚えています。やりたい事が分からない！そもそも考えてなかった！という人でも、企業研究や自己分析を通して自分を知ること、エントリーシートや面接で伝えたい事が見えてくるのでは、と感じたので、それについてまとめたいと思います。

・あなたにとって働くとは何ですか？ (志望動機)

企業研究をしていくと、同業種の企業でも惹かれる企業とそうでない企業、希望と全く別業種なのに惹かれる企業等が出てくるのではないのでしょうか。では、それらに共通点は何か無いのでしょうか。抽象的な事でもなんでもいいと思います。この共通点はあなたの働く事についてのこだわりではないのでしょうか。私は共通点から見つけたこだわりを応用し、志望動機を作っていました。志望動機は企業からの情報だけで作ってもかぶってしまう事が多いと思うので、何かひとつ、オリジナルを用意しておくといいと思います。

・あなたの強み、弱みは何ですか？ (自己PR、取り組んだ事、等)

自分の強み、弱みを客観的にエピソード込みでアピールするのは苦手な人も多いのではないのでしょうか。自分のこういう所をアピールしたいけど、なかなか

かエピソードが見つからない。私もその一人でしたが、様々なエピソードからPRポイントをピックアップすることで自分の習慣となっているPRポイントを見つけ出すことが出来ました。また、エピソードとPRをしっかりと結びつけておく事で様々な質問が飛んでくる面接時にもエントリーシートより深く自分を伝える事が出来るのではないかと思います。

・最後に

自分を知らなくては相手に伝える事は出来ません。自己分析は移動時間や実験の合間など、いつでも、どこでも出来ます。どういう状況でどんな気分になるのか、どんな行動をとるのか、どう考えているのか。意外と気付いていない事も多いのではないのでしょうか。皆、就活は初めてです。失敗した時にこそ、失敗から逃げず、新たなアイデアを練る事で内定を勝ち取って下さい。